

2016年3月期 第1四半期電話会議における質疑応答の概要
(2015年7月30日(木)、東京)

【全体】

Q. 1Qの営業利益45億円は通期見込に対して、どういった進捗と考えればよいのか？

A. 全体としては計画線以上にあると捉えているが、セグメント毎にみると若干強弱がある。具体的には、水産はやや弱めであるのに対し、低温物流は好調に推移していると捉えている。

【加工食品】

Q. 業務用調理品は上期で2%の増収見込になっているが、2Qからの回復は難しいのか？

A. 2Q以降は回復に向かうと見込んでいるが、上期で2%の増収は難しいのではないかと見ている。

Q. 1Qで加工食品は9億円の増益だが、その主な増減要因を教えてください。

A. 増益の主な要因は「価格改定・商品ミックス改善によるコスト吸収効果」である。期初時点で、通期の増益効果を45億円見ていたが、1Qではその4分の1をやや上回る効果が出ている。一方、減益の主な要因は、「円安による原材料・仕入コストの上昇」である。通期で49億円の減益を見込んでいるが、1Qでは6億円程度の影響が出ていると見ている。

Q. 足元で円ドルの為替レートが124円前後で推移するなか、今後、更に円安が進んだ場合のコスト増への対策を教えてください。

A. 今後更に円安が進むようなことになれば、何らかの対策を講じていく必要があると考えている。

【低温物流】

Q. TPPの影響について確認したい。日豪EPAと比較した場合、かなり踏み込んだ内容になっていると思うが、低温物流事業への業績影響について教えてください。また、輸入貨物の増加で冷蔵倉庫の需給が逼迫することになった場合、値上げは可能なのか？

A. TPPの発効で輸入数量がどの程度まで増加するかは未知数であるため、業績への影響についてはご容赦願いたい。一方、中長期的には畜肉を中心に輸入数量の増加が考えられる。冷蔵倉庫の需給が逼迫すれば高単価の貨物を集荷し易くなり、結果的に値上げと同様の効果が得られることになると見ている。

以上

※当文書は電話会議当日の質疑応答内容をすべて記録したのではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。